

第641回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2022年3月度 ——

◇ 開催日

2022年3月22日(火)

◇ 議題

<テレビ番組>

「羽鳥×指原 ご当地！推しメシツアー

それ東京でも食べられますけど！」

放送日時：2月20日（日）午後1時55分～午後3時20分

◇ その他

九州朝日放送株式会社

第641回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2022年3月22日(火)午後3時30分~4時25分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 5名

委員長	赤木由美
副委員長	石橋和幸
委員	丸石伸一
委員	上野恵梨奈
委員	石井靖子

欠席委員数 3名(リポート提出)

委員	藤村まこと
委員	田川真司
委員	中山裕二

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和氣靖
執行役員	岩村智
報道情報局長	柴田高宏
総合編成局長	大保一
総合編成局 番組戦略部長	渡辺浩司
総合編成局 番組戦略部 プロデューサー	北島泰洋

番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	園田哲也
番組審議会事務局(視聴者・広報室)	松永俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組 「羽鳥×指原 ご当地！推しメシツアー それ東京でも食べられますけど！」
放送日時：2月20日（日）午後1時55分～午後3時20分
- (2) 3月・4月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 2月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 地方出身の有名人が「ご当地推しメシ」をお店と共に紹介する構成は、他のグルメ番組と比べて情報量が多く、郷土料理の質という点でも充実していた。コロナ禍で里帰りが難しい中、東京で東の間の郷愁を味わうというコンセプトを上手く伝えていた。
- 羽鳥慎一さんと指原莉乃さんのコンビネーションは絶妙で安心して番組を見る事ができた。2人の食レポは決して上手に喋ろうとしておらず、正直に本音を吐露して本当に美味しいのだろうと感じた。長尺番組だが退屈せずに見ることができた。
- 指原さんの「テレビで食べた中で一番感動しているかも」などのコメントは非常にインパクトがあった。独特の表現に関心をした。一方で他の出演者の少し驚くようなコメントにも自然にフォローする場面はさすがだと感じた。
- りんごちゃんが紹介した青森のお店は、お店を切り盛りする姉妹、青森からお店をサポートする両親、お店を憩いの場として集まる青森出身の人たちの温かい思いが素直に伝わった。青森の郷土料理を東京の人にも知ってもらいたいという思いに胸を打たれた。
- 六平直政さんのエピソードは大変興味深かった。故人となった大切な人との思い出も相まって、料理を通して郷愁を掻き立てる演出が効果的だった。全体として、出演者や店主の心情、その裏にあるストーリーに触れることで温かい気持ちになれる番組だった。
- 単に東京で食べられる地方料理の紹介ではなく、故郷を離れて活躍する有名人がふるさとや懐かしい人への思いを語るほっこりとした良い番組だった。番組を見終わり、皆さんが熱い思いで「ご当地メシ」を提供していると分かり応援したい気持ちになった。
- 東京のグルメ紹介では地方の視聴者の関心は低くなるだろうが、本作はご当地グルメを紹介する有名人の心温まるエピソードを紹介することにより、有名人の意外な一面を知らしめていた。思わず自分の家族や友人を思い起こし、どこか懐かしい気持ちになれる番組だった。
- 「地方局の放送局員が選んだ ご当地グルメベスト3」が番組に厚みを増していた。
- コロナ禍で深刻な打撃を受けている飲食店を応援する意味でも良い企画だった。他のグルメ番組にはないドキュメンタリー的な要素も入った非常に面白い番組だった。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 福岡の「ご当地推しメシ」玄風館を紹介する場面で、どうしてお店に行ったことがない工藤公康 福岡ソフトバンクホークス元監督がゲストに選ばれたのかと疑問に感じた。お店に縁があるゲストを選ぶべきだったのではないか。
- 玄風館が福岡ではどのように人気があって、どんな人たちが来店しているのか、もう少し取材や説明があった方が良かった。
- ガイド役を務める有名人の全員が「ご当地推しメシ」として自慢する郷土料理や名店を紹介するスタイルを貫いて欲しかった。
- KBC宮本啓丞アナウンサーの役割や立ち位置がやや曖昧でもったいない印象を受けた。
- KBC制作の全国ネットであればもう少し福岡のお店を紹介して欲しかった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 「グルメ番組」であることを前提に、タレントの人生模様を交えた新しいスタイルの番組を放送したいとの理由から、福岡、北海道、大阪をリサーチした。他方で、実際にお会いして、お話を聞くとりんごちゃんの話しがとても番組のコンセプトとマッチしていたので、青森のエピソードを盛り込んだ。
- りんごちゃんの場面は高評価を頂いたが、吉村崇さんや六平直政さんの場面は、グルメと郷土料理とバックグラウンドのバランスを少し欠いたと反省している。
- オールターゲットで番組を制作するにあたり、飽きさせない工夫として多ジャンルからキャスティングを行った。スポーツ界からは、監督退任が決まったばかりの工藤元監督にご出演いただくことができた。（工藤元監督とKBCの間に）長年築き上げてきた信頼関係があるので、他では見られないバラエティー番組における工藤元監督のご出演が実現したが、バラエティーに傾き過ぎた部分は反省点だ。
- 尺の都合で宮本アナウンサーが進行を務めた部分を泣く泣くカットした結果、（宮本アナウンサーが）出演する場面が少ないと印象を与えてしまった。また、コロナ禍における一般の店内でのロケで、ソーシャル・ディスタンスを確保するために離れた配置をせざるを得ないという事情もあった。
- 子どもの興味をひく内容をお届けすべく、料理のシーンでは（一眼レフなど）解像度が高いカメラを使用するなどして、より美味しそうに見せるように工夫をした。また、ゲストの思いや人生だけではなく、演者間での軽妙なトークは子どもからお年寄りまで楽しんでいただけるような内容にできたと思っている。

などの説明をしました。